

北納だより

温故
創新

義務教育学校 八女市立

上陽北納学園

JOYO-HOKUZEI compulsory education school

第14号 令和8年3月3日発行

文責 校長 武藤 健



令和7年度重点目標「目標達成に向かって粘り強く取り組む子供の育成」

磨き続けた九年間・・・そして、それぞれの春へ ～卒業式(3/13)によせて

三月を迎え、9年生の卒業が近づいてきました。福岡県初の義務教育学校として開校した本校に一期生として入学した子供たちが、九年間の歩みを胸に、新しい春へと向かおうとしています。

思い返せば、初めてランドセルを背負った日から今日まで、子供たちは多くの経験を重ねてきました。成功の喜びだけでなく、悩みや葛藤の中で立ち止まる時間もあったことでしょう。しかし、そのすべてが確かな成長となり、今の凛とした9年生の姿へとつながっています。

私が大好きなバレーボールのアニメ『ハイキュー!!』の中に、

「**才能は開花させるもの。センスは磨くもの。**」という言葉があります。

「才能」とは、生まれたときから完成しているものではなく、挑戦を重ねる中で少しずつ形になっていくものです。そして「センス」とは、仲間と支え合い、あきらめずに続けてきた時間の中で磨かれていく姿勢なのではないでしょうか。皆さんが九年間で積み重ねてきた日々そのものが、何よりの証だと感じています。



そして、ここまで子供たちを支えてくださった保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。何気ない日常の声かけや温かな見守りが、子供たちの安心感となり、前へ進む力となってきました。学校と家庭がともに歩んできた九年間に、深く御礼申し上げます。

9年生の皆さん。皆さんの物語は、卒業で終わるわけではありません。ここから新しい章が始まります。卒業式の日、皆さんがどんな表情でこの学び舎を巣立っていくのか・・・その瞬間を、私は今から楽しみにしています。



いじめを「しない」「させない」「見のがさない」 ～いじめ撲滅集会～

3月2日(月)に、「いじめ撲滅集会」を実施しました。本集会は、児童生徒会が中心となり、「自分たちの学校を自分たちの手で、よりよいものにしたい」という思いのもと、企画・運営された取組です。集会では、いじめについて考える読み聞かせや、互いの感じ方や考えに向き合うワークショップを通して、子供たち一人ひとりが「自分には何ができるか」を主体的に考える姿が見られました。話し合いの中では、相手の立場に立って考えようとする姿や、自分の言葉で思いを伝えようとする姿が随所に見られ、集会全体が温かい対話の場となりました。

そして最後に、全校の思いを込めて、「いじめ撲滅宣言：**いじめをしない・させない・見のがさない**」が採択されました。この言葉には、いじめを「自分には関係のないこと」とせず、一人ひとりが当事者として行動していこうとする子供たちの強い決意が込められています。

本集会は、「八女市いじめ防止教育授業公開研修会」を兼ねて実施し、市内の学校から多くの先生方に参観していただきました。子供たちが自ら考え、対話し、行動へとつなげていく姿は、参観された先生方からも高く評価されました。

いじめ防止は「やらされる活動」ではなく、自分たちの問題として考え続けることが何より

大切です。今回の集会は、その第一歩を子供たち自身が踏み出した、意義深い取組となりました。本校では今後も、子供の主体性を大切にしながら、「誰もが大切にされる学校づくり」を、子供たちとともに進めてまいります。



海を越えて届いた“つながり” ～カミロイキ・エレメンタリースクールとの交流～

本校では、姉妹校であるワシントン・ミドルスクールとの交流に加え、5年生を中心にハワイ州のカミロイキ・エレメンタリースクールとのオンライン交流を継続しています。画面越しではありますが、互いの文化や学校生活を紹介し合う中で、子供たちは英語で伝える楽しさや、異なる価値観に触れる喜びを実感してきました。

このたび、カミロイキ・エレメンタリースクールの子供たちから、直筆の手紙を貼った心温まるポスターが本校に届きました。一文字一文字に込められた思いから、遠く離れていても確かに繋がっていることを感じます。子供たちはポスターの前で足を止め、笑顔で手紙を読み合いながら、交流の積み重ねを実感している様子でした。

本校は、九年間の学びの中で「他者とつながり、主体的に挑戦する力」を大切にしています。オンラインで育まれた関係が、将来的には直接交流へと発展していくことを目指し、これからも継続的に交流活動を進めてまいります。海を越えて広がる学びの輪が、子供たち一人ひとりの視野を広げ、自ら未来を切り拓く力につながることを願っています。



Kamiloiki
ELEMENTARY SCHOOL



第2回オンライン交流の様子（1/28）

学びの土台づくりは、「初等科」から ～初等科も頑張っています!!～

学校だよりや行事紹介では、どうしても中等科・高等科の活躍が目に入りやすいものです。しかし、**本校の学びの土台は、日々の初等科の学習の積み重ね**にあります。

初等科の子供たちは、学校での日々の学習はもちろんのこと、積極的に校外学習に出かけ、地域の自然や文化、人との関わりの中で多くのことを学んでいます。友達と声を掛け合いながら歩く姿、初めての場所に目を輝かせる姿、そして「**自分で考えて行動しよう**」とする小さな挑戦の一つひとつが、とても印象的でした。

義務教育学校である本校では、九年間の学びが連続しています。中等科・高等科の主体的な姿は、決して突然生まれるものではありません。初等科で生まれる「やってみよう」「友達と関わってみよう」という経験の積み重ねこそが、その後の大きな成長につながっています。

写真に写る子供たちの姿は、まさに本校の未来そのものです。これからも初等科の学びを大切にしながら、九年間のつながりを意識した教育を進めてまいります。



久留米市美術館訪問（1・2年）



町探検（2年）



虚空蔵神社訪問（3年）



八女伝統工芸館訪問（4年）